

料理の味を自分向けに改良するための 簡単な料理レシピメモアプリケーションの提案

研究系卒研

0923120 布川 泰拓

(指導教員 速水治夫 教授)

1. はじめに

現在、Web 上には料理レシピを掲載した Web サイトが数多く存在する。個人のブログから食品メーカーの運営するレシピ掲載サイト、大規模なレシピ共有サイトに至るまで様々な形で掲載されている。

しかしながら人間の味覚は個人により異なる。先天的なものから後天的なものまで含め、様々な要因により味覚には個人差がある。故に他人が作成したレシピをもとに料理を行った際、必ずしも自分の好みに合ったものができるとは限らない。さらに、料理の初心者には自ら料理を創作することは困難である。すなわち、料理の初心者は既存のレシピに依存を余儀なくされると考えられる。

そこで、本研究では料理の初心者が既存のレシピを利用しつつ料理の味を自分好みに改良できるようにするためのアプリケーションを提案する。料理の味を決める要因として特に材料の分量という要素に着目した。

2. 試作アプリケーションの概要

試作したアプリケーションは主に検索・一覧表示画面と閲覧・編集画面の 2 つの画面を遷移して機能する。閲覧・編集画面の表示の一部を図 1 に示す。

名前	料理前の分量	料理後の分量	
キャベツ	葉4~5枚	葉4~5枚	<input type="checkbox"/>
ビーマン	3個	3個	<input type="checkbox"/>
豚バラ肉	300g	400g	<input type="checkbox"/>
豆板糖	小さじ1/2	小さじ1	<input type="checkbox"/>
しょうゆ	小さじ1/2	小さじ2	<input type="checkbox"/>
味噌	小さじ1	小さじ1	<input type="checkbox"/>
日本酒	大さじ1	大さじ1	<input type="checkbox"/>

図 1 閲覧・編集画面の表示の一部

2.1 検索・一覧表示画面

検索・一覧表示画面では、過去に登録した料理レシピの一覧表示、料理名や材料名を用いた検索表示などを行うことができる。この画面で新規作成を実行あるいは過去に登録した料理レシピを選択することで閲覧・編集画面に遷移する。

2.2 閲覧・編集画面

閲覧・編集画面では、料理レシピの名前・レシピを参照した URL・料理カテゴリ名・材料の種類と分量などについて入力し、データベースに保存することができる。材料の分量を表示するカラムが 2 つ存在する。実際料理を行って食事した後、分量に関し変更を加えるべきだとユーザが判断した場合、片方のカラムの値を変更し記録する。変更したカラムの入力内容が、次回料理する際により良い味を目指す分量の予想値となる。

3. 評価実験

本学の学生 6 名に実際に試作アプリケーションを使用してもらい、アンケートを実施した。その結果を次の表 1 に示す。

表 1 評価実験アンケート結果

質問	低 ← → 高					平均
	1	2	3	4	5	
①(基本的な機能について)このアプリは便利だと思うか/役に立つと思うか				2	4	4.67
②(操作感について)使いやすいと思うか		1	1	2	2	3.83
③このアプリを継続して使いたいと思うか			1	2	3	4.33
④過去の記録を再度閲覧した際、前回料理時の反省点を直観的に理解できると思うか				3	3	4.50
⑤このアプリを使用することで料理の味が向上する/自分向けになると思うか				1	5	4.83

4. おわりに

実験結果から、試作アプリケーションは概ね高い評価を得ることができた。これにより、本アプリケーションを使用することにより、料理の味を自分向けに改良できる可能性が高いといえる。

今後はユーザにとって使いやすい設計となるようにユーザインタフェースの改良などを行っていく。

参考文献

- [1] 都甲潔, 味覚を科学する, 角川書店(2002)
- [2] 阿部啓子, 山本隆, 的場輝佳, Jeroen A. J. Schmitt, 食と味覚, 建帛社(2008)
- [3] クジラ飛行機, Flex&FlashBuilder4 による Web アプリケーション開発ガイドブック, 毎日コミュニケーションズ(2010)